

♡ ことばの力 ♡ からだの力 ♡ こころの力

園長室だより



城南学園幼稚園 園長 太田友子 平成29年6月21日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園



「非認知能力」が育つとき、育てるとき

水無月の季節に入り、プール日和の晴天が続いています。そんな中、園庭では野菜も実をつけました。子どもたちは、毎日、思い思いに野菜たちに水やりをしてお世話しています。



さて、年少組のテラス浴いにある「クローバー畑」は絶好の生物のすみかとなっており、子どもたちは目ざとく見つけ出しては遊んでいます。

そんなある日、両手を差し出しながら「ダンゴ虫」と話しかけてきた年少児がいました。「うわあ、かわいいねえ。」とそのダンゴ虫を間にして二人だけの時間が生まれました。動き回るダンゴ虫は腕を伝ったりしますが、男児はその小さな生き物が落ちたりしないように、「手加減」をしながら大切に接しているのです。



幼児期の学びの特徴は、体験を通して感じとることにあります。その中でもこの男児の姿のように、「手加減」「塩梅(あんばい)」「ほどころ合い」する力も幼児期に是非育てたい力の一つです。これらの力は、その場の状況を理解し、共に生きる相手を気遣おうとする、関係性の中から生ずるものだからです。

近年、こうした姿を「非認知能力」「自己調整能力」とも言われ、認知能力を支える力として、幼児期に最も育つ「後伸びする力」としても重要視されています。

文部科学省は、この3月、これからの教育方針である「幼児教育要領」を告示し、来年度から幼児教育は全面実施されることになっています。

本園では、これらを踏まえて先取りして、教育方針「小学校につながる学びの基礎を培う幼児教育」を掲げて教育を展開しています。幼稚園生活の遊びを通して、気づきや感動を表現したり、他児と共有したりする「振り返り」の場を設け、学びの芽生えを育もうとしています。自信をもって小学校へ進む子どもたちを育てようとしています。

7000人のデータから

「後伸びする力」を育む親の習慣

太田友子



昨日、ある幼児教室にお招きいただき、標記の演題でお話させていただきました。

これから入園されるお子様をもつお母さんたちにお話できるのです。ちょうど私の娘と同年代ですので親近感をもってお話することができました。

講演目的は、「親御さんに今より元気になってもらうこと」「できることから始めてみようと思えること」の二つです。子育てに正解なんてありません。なぜなら、一人として同じ親、同じ子どもはいなく、それぞれの親と子が織り成す「子育て・親育ち物語」なのですから。

さて、保護者の皆さん、お元気ですか。心身の健康を保つことは簡単ではありませんね。私も皆さんに問いかけながらも、自問自答しています。

成長著しい子どもたちとともに過ごせる環境に感謝しています。子どもたちの成長に少しでも寄り添えたらと願っています。また、職員の姿からも感動や元気をもらうことが多々あります。日々の保育日誌の記録に、保育者自身が感動した子どもの姿が綴られているとき、保育者が子どもから学びとりながら成長していると確信します。そして、そのようなまなざしで子どもたちに向き合っていることがわかり安心感を抱きます

また、「大きく」とらえて「小さく」治める—これはよく教職員に話すことですが、失敗やミスを『大きく』受け止めて、きちんと対応することが、問題解決・改善への早道だと考えているからです。一人の失敗やミスは、その人だけの問題でなく、誰にでも起こりうるという危機意識をもって、よいことだけでなくよくないことも情報共有することを、事あるごとに確認しあっています。ある保護者から、「いろんな先生からみてもらっていることがわかり、とても安心しています。」というお声をいただきました。「チーム」の強みだと励みにしています。

一人ではない、共に育てるパートナーが存在する、それだけでも元氣や勇気が湧いてきます。

